



斎藤せいや (壮士の会)

- 1.部活動について
- 2.プログラミング教育のその後について

- 問** 部活動の地域移行について教育委員会の見解を伺う。
- 答** 教員の負担軽減や休日における生徒の活動機会を確保するためには部活動の地域移行の検討が必要である。情報収集に努め、持続可能な部活動運営のあり方を検討していく。
- 問** 部活動の地域移行後、休日の部活動に意欲的な教員がいた場合はどのように対応していくのかを伺う。
- 答** 兼業・兼職について慎重に検討していく必要があると考えている。
- 問** 中学校でのプログラミング教育が始まったが課題はどのようなものがあると考えているか伺う。
- 答** 身につけた資質・能力が横断的・総合的に発揮されるように指導を進めることが今後の課題である。
- 問** 児童生徒に一人1台のタブレット端末を配備したが、プログラミング教育に影響・効果があったのか伺う。
- 答** 「教材の活用が広がった」「個別の学習機会が拡充された」という声が教員からあがっている。



折戸小夜子 (フェアな市政)

- 1.戦争はやってはいけない！！
- 2.シルバー人材センターの運営状況

- 問** ロシアがウクライナを侵攻し、悲惨な実態が毎日テレビで放映されて心が痛む。戦争を知らない子どもたちに自分ごととして戦争の実相を学ぶ機会を多く作ることは、この時期重要だ。身近に戦争の実相を学ぶ場所がある。明治大学生田キャンパスの明治大学平和教育登戸研究所資料館は、戦前日本の戦争・軍隊を知る上で、きわめて貴重な戦争遺跡の一つである。ぜひ小中学生の平和に関する社会科見学に組み入れて実施することを提案するがいかかか。
- 答** 社会科見学の実施や場所の選定は、各学校の教育計画を踏まえ学校行事を調整し設定している。教育委員会が一律に場所を指定する趣旨のものではない。しかし、平和教育を充実させる視点で小中学校教育研究会の社会科部の教員への紹介を検討する。



きりき優 (新政会)

- 健幸都市実現に向けた多摩市の介護福祉基盤整備とスポーツ施策の在り方について

- 問** 物価や燃料費の高騰による介護福祉事業者への負担を企業努力のみで吸収することは難しい。介護職員への処遇改善のためにも事業所支援が必要ではないか。
- 答** 現場の声を聴きながら検討を進めていきたい。
- 問** 介護や福祉サービスを担う人材の確保が困難な状況が続いている。資格取得支援拡充の考えはあるか。
- 答** 多摩市では介護職員初任者研修の資格取得補助を行っているが、今後は実務者研修も対象としていく。主任介護支援専門員研修等についても検討したい。
- 問** 健幸都市実現に向けて、学校卒業や部活動引退で運動習慣が途切れないような取組みも必要ではないか。
- 答** スポーツ施設の立地や整備の質も課題であり、スポーツをやりやすい環境が必要。続けてきたスポーツを継続できる環境サポートについても考えていきたい。
- 問** 時代に即したスポーツ施策整備をどう考えるか。
- 答** 駐車場の充実について検討を進める。また、プロスポーツクラブの力も借りて地域活性化を図りたい。



大くま真一 (日本共産党)

- 1.配置に濃淡！気軽に立ち寄れる地域子育て支援拠点に
- 2.物価高騰！国へ交付金の増額要求を

- 問** 高く評価しているからこそ、地域子育て支援拠点施設の配置にばらつきがあるのが残念。国目標の「中学校区にひとつ」になっていない。妊婦さんでも子連れでも、歩いて行ける身近な施設が必要。どうしているか。
- 答** 児童館や週一回程度の出張ひろばで対応している。
- 問** 子育て世代を呼び込むためにも、市内にまんべんなく配置することが必要ではないか。
- 答** 多摩市の子育て環境をPRするためにも、空白エリアをどう埋めていくかは課題。検討を進める。
- 問** 世界情勢にくわえ、アベノミクスの失敗による異常な円安が物価高騰に追い打ちをかけている。給食費の値上げを防ぎ、質・量の確保もすべきではないか。
- 答** 質・量・安全性を確保する。
- 問** 国は交付金を決めたが、全然足りない。支援を進めるためにも交付金の増額を要求すべきではないか。
- 答** 全国市長会でも地方財源確保が求められている。声をあげるべき時には、あげていきたい。

